

平成26年度 学校評価 総括評価表

徳島県立みなと高等学園

| 重点課題 | 重点目標 | 自己評価 | | 学校関係者評価 学校関係者の意見 | 次年度への課題と 今後の改善方策 | |
|----------------|--|---|---|--|---|---|
| | | 評価指標と活動計画 | 評価 | | | |
| 人権教育の推進 | <p>生徒一人一人の人権を尊重した教育を徹底するとともに、他者を認める人格形成及びいじめ防止を推進する。</p> <p>① 特に、いじめ問題を意識して他者を思いやり認める教育を推進する。</p> <p>② 生徒人権委員会活動の充実を図る。</p> <p>③ 学校・家庭が一体となって展開する人権教育を推進する。</p> | <p>活動計画</p> <p>① 教職員が生徒の人権を尊重する態度を示すことにより、生徒の人権感覚を高める。</p> <p>② 生徒人権委員会活動等とおして、支え合う仲間づくりとリーダーシップの育成に取り組む。</p> <p>③ 生徒・保護者を対象とした人権教育講演会・研修会を開催し、学校・家庭が一体となって人権感覚を高める。</p> <p>評価指標</p> <p>① 全教職員が、生徒に接する時や職員会議などの際に「さん付け呼名」を行う。</p> <p>② 生徒人権委員会の人権啓発のための掲示物を作成し、文化祭で展示する。</p> <p>③ 保護者対象の人権教育講演会・研修会を実施する。</p> | <p>活動計画の実施状況</p> <p>① 生徒一人一人の人権を尊重した教育を徹底するとともに、他者を認める人格形成に努めた。</p> <p>② 中・高生による人権交流事業で積極的に他校生と交流し、リーダーシップの育成を素養する活動を行った。</p> <p>③ 生徒・保護者・教職員対象の人権コンサート、保護者・教職員対象の人権教育研修会を実施した。</p> <p>評価指標の達成度</p> <p>① 全ての教職員が「さん付け呼名」と明るく丁寧な言葉かけを徹底して実施した。</p> <p>② 文化祭で人権交流活動の様子を写真と感想文で振り返る展示をした。</p> <p>③ 保護者対象の人権教育講演会・研修会を2回実施した。また、生徒・保護者対象人権コンサートを1回実施した。</p> | <p>総合評価</p> <p>(評定) A</p> <p>(所見)</p> <p>個々の生徒の実態に応じて、年間指導計画を作成し、ホームルームや学科を越えて連携を密に保ち、人権教育を基礎に据えた教育実践を行った。自分を大切にしたり、他の人の心情を考えたりする気持ちや態度など、生徒の人権感覚が育ってきている。</p> | <p>今年是小松島市の人権研修会の企業部で2月に発表してもらいました。ゾーンとしての特色を出すためにも、連携を密にして取組をアピールできたと思う。</p> <p>また、「さん付け呼名」が定着しているのはとてもすばらしいと思う。生徒さんと接してとてもいい印象があるので、ぜひ続けてほしいと思う。</p> | <p>今後も、個々の生徒が自己肯定感を高められるよう人権感覚の視点に立ち、一人一人の障がい特性の理解に基づいた教育実践に取り組み、生徒の自己実現や就労に結びつく指導を継続する。</p> <p>また、ゾーン内での連携を密にして、人権コンサート、人権教育研修会を協働で実施したい。</p> |
| 個別の指導計画の効果的な活用 | <p>生徒及び保護者の教育的ニーズに応じた「個別の指導計画」を作成し実践することで、きめ細かい指導及び支援を推進する。</p> <p>① 一人一人の生徒の実態や、背景となる生活環境等を正確に把握し、個に応じた指導及び支援を推進する。</p> | <p>活動計画</p> <p>① -1 ケース会等を開催し、生徒の実態把握に努めるとともに、指導及び支援の方策を示す。</p> <p>① -2 一人一人に応じた進路に関する学習の充実を図る。</p> <p>評価指標</p> <p>① -1 ケース会等を開催し、指導及び支援の方策について教職員の共通理解を図る。</p> <p>① -2 進路に関する学習の時間を確保し、担任間で授業内容を話し合い指導の充実を図る。</p> | <p>活動計画の実施状況</p> <p>① -1 全学科、部別、ホームルーム別のケース会、個別の指導計画検討会議を開催し、指導及び支援の方策について検討した。</p> <p>① -2 進路に関する学習の年間指導計画を作成し、進路に関する学習の充実を図ることができた。</p> <p>評価指標の達成度</p> <p>① -1 ケース会、個別の指導計画検討会議を開催し、指導及び支援について教職員の共通理解を図った。</p> <p>① -2 進路に関する学習の時間を十分に確保し、個に応じた指導及び支援を推進することができた。</p> | <p>総合評価</p> <p>(評定) A</p> <p>(所見)</p> <p>ケース会、個別の指導計画検討会議を開催し、個に応じた指導、支援について教職員の共通理解を図ることができた。進路に関する学習の時間を十分に確保し、きめ細かい指導及び支援を推進することができた。</p> | <p>発達障がいの方の個別の支援計画については、地域の中ではまだまだ定着していないように感じる。各市町村により理解に温度差があるようにも思われる。</p> <p>地域によって支援体制にばらつきがあることはやはり課題であるが、卒業後のアフターケアは労働や福祉の関係機関と連携をとりつつ進めていかなければならない。</p> | <p>ケース会議を、学校全体、学科別、ホームルーム別など、状況に応じて実施したい。また、気付きデータベースを積極的に活用することにより、生徒の課題、指導方針などについて教員間で共通理解を図り、個々に応じたきめ細かい指導及び支援を推進する。</p> |
| 職業教育の充実 | <p>生徒の職業能力や意欲等を高める指導を系統的に実施し、職業的自立に結びつける指導を推進する。</p> <p>① 生徒一人一人の適性や能力に応じた就業体験を実施するとともに、進路指導に関して、生徒・保護者、関係機関等と共通理解を図る。</p> | <p>活動計画</p> <p>① -1 HR担任、事業所等と綿密に連携して就業体験を計画、実施するとともに、生徒・保護者のニーズに応じた、進路に関する相談会を実施する。</p> <p>① -2 就労先の確保と職場定着を見据えた進路指導の充実を図る。</p> <p>評価指標</p> <p>① -1 生徒・保護者のニーズに応じた、進路説明会(1年生)や拡大進路相談(2年生)を実施する。</p> <p>① -2 1年生、2年生の実習先を確保し、就労を希望する3年生の就労先を決定する。</p> | <p>活動計画の実施状況</p> <p>① -1 生徒一人一人の適性や能力に応じた就業体験(事業所見学・校内実習・現場実習)の計画と実施ができた。</p> <p>① -2 進路指導課とジョブサポーターを中心に、現場実習の受け入れ先確保の充実を図ることができた。</p> <p>評価指標の達成度</p> <p>① -1 生徒・保護者のニーズに応じた、進路説明会(1年生)や進路相談(3年生)・拡大進路相談(2年生)を実施することができた。</p> <p>① -2 3年生全員の進路先を決定することができた。</p> | <p>総合評価</p> <p>(評定) A</p> <p>(所見)</p> <p>拡大進路相談では、個々の生徒の進路に関する課題等について、生徒・保護者、学校、関係機関で共通理解を図ることができた。また、3年生については、家庭や関係機関と綿密に連携を図ることにより、全員の進路先を決定することができた。</p> | <p>採用する側にとって、障がい者雇用を進めるにあたって、仕事内容等が分かりにくい場合がある。現場実習を積み重ねることにより、仕事内容等の洗い出しが可能となるので、現場実習は非常に重要である。</p> <p>学校からも採用側に積極的に職種や生徒の特性等を提案することにより、最適な進路先の確保に繋がるのではないかと感じる。</p> | <p>通学区域が非常に広範囲で、生徒の居住地と事業所の所在地や職種と生徒の特性におけるマッチングの幅の狭さを感じている。</p> <p>そのため、生徒一人一人に応じた実習先と進路先の保障のためには、広範囲のエリアにおいて、受け入れ事業所数の確保はもとより、多種多様な職域の開拓を進めていく。</p> |
| センター的機能の充実 | <p>小、中学校および高等学校等の教員に対して、障がいの理解と教育的支援につながる情報提供等を行い、学校としてのセンター的機能を果たす。</p> <p>① ハナミズキゾーン内の関係機関との連携をより強固にする。</p> <p>② 地域の学校に対して、障がいの理解や教育的支援に関する情報提供等を行い、センター的機能を果たす。</p> | <p>活動計画</p> <p>① 関係機関との連携協議会に出席することで、情報を共有し連携を図る。</p> <p>② 地域の学校からの要請を受け、年間を通して教育相談、研修会への支援等を実施する。</p> <p>評価指標</p> <p>① ハナミズキゾーンの連携会議に月1回出席する。</p> <p>② 公開研修会、地域の学校における校内研修への支援を年間10回以上実施する。</p> | <p>活動計画の実施状況</p> <p>① ハナミズキゾーン連携会議、各施設の行事、事業に参加して連携を図った。</p> <p>② 地域の小・中・高等学校からの要請を受け、巡回相談員が中心となり、年間を通して相談活動等を実施した。</p> <p>評価指標の達成度</p> <p>① ハナミズキゾーン連携会議に月1回出席し連携を図った。</p> <p>② 外部依頼の研修会14回、本校主催の外部向け研修会3講座、合計17回講師を務めた。</p> | <p>総合評価</p> <p>(評定) A</p> <p>(所見)</p> <p>ハナミズキゾーン内の連携を一層強化するとともに、地域支援に関しては、特に、高等学校、中学校に対する支援の充実を図ることができた。</p> | <p>連携会議をより一層充実させることで、連携を強化できればと思う。</p> <p>また、大学に進学しても、不登校となり大学側が困っている事例がたくさんある。みなと高等学園でも、大学進学を目指す生徒が出ると思うが、関係機関と連携を十分にとりつつ継続的なアフターケアに努めてほしい。</p> | <p>高校の教育現場において、「個への支援」では追いつかなくなっている印象が強いことから、小・中学校ではスタンダードになってきた「クラスワイドな支援」を盛り込んでいき、計画的な巡回相談が不可欠であり、各校のコーディネータ等の連携を取りながら効果的な教育相談を実施していく。</p> |